

⑥ 歯・口腔の健康

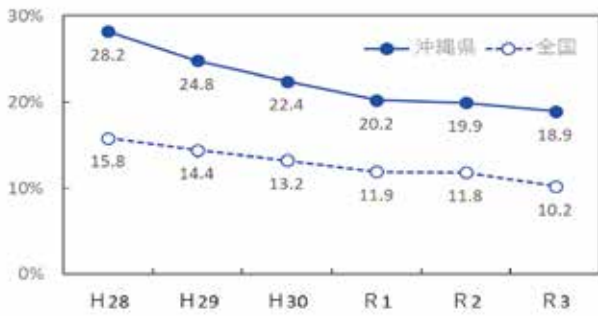
県民の目指す姿（望ましい姿）

県民一人ひとりがむし歯や歯周病を予防する生活習慣を身につけ、定期的に歯科検診を受けている。必要に応じて歯科保健指導や治療を受け、生涯にわたり自分の歯で食べる楽しみを味わっている。

現状

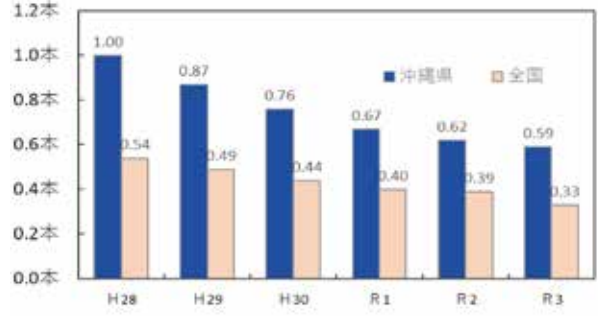
- 令和３年度の３歳児でむし歯のある者の割合は 18.9%、一人平均むし歯数は 0.59 本です。年々減少し、全国との差は縮小傾向にありますが、全国では下位に位置しています。（図 96・図 97）
- 乳幼児期のむし歯は減少していますが、地域差や、多数のむし歯のある者（３歳児で４本以上むし歯のある）等、個人差が存在しています。（図 98）
- 令和３年度の 12 歳児でむし歯のある者の割合は 54.0%、一人平均むし歯数は 1.6 本です。年々減少傾向にありますが、全国最下位の状況が続いています。（図 99・図 100）
- 6 歳児から 17 歳児の全ての年齢においてむし歯のある者の割合が全国より高く、年齢が上がるにつれ差が拡大傾向にあります。また、全ての年齢において、未処置歯のある者の割合が全国と比較して 1.5 倍ほど高くなっています。（図 101）
- 令和４年度にむし歯予防のためのフッ化物洗口を実施している小学校は 7 校、中学校は 3 校で、実施拡大が図られていません。
- 令和３年度の歯肉に炎症所見を有する者の割合は 20 歳代が 39.7%で最も高くなっています。加齢とともに歯周炎が増え 60 歳代が 53.0%で最も高くなっています。過去の調査に比べると歯周炎を有する者は増加しています。（図 102・図 103）
- 令和３年度の歯間部清掃器具を毎日使用する者の割合は、全ての年代で 40%に達しておらず、30 歳代が 17.0%で最も少なくなっています。（図 104）
- 令和３年度の 20 歳以上で過去 1 年間に歯科検診を受診した者は 56.4%で増加傾向にあります。年齢別に見ると 20 歳代が 48.5%で最も少なくなっています。（図 105・図 106）
- 令和３年度の歯周疾患検診等成人対象の歯科検診を実施している市町村は 23 市町村 56.1%で増加していますが、全国に比べると少なく、受診率も低くなっています。（図 107）
- 令和３年度の 80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者（8020）の割合は 44.1%で、過去の調査に比べると着実に増加していますが、平成 28 年度の全国（51.2%）に及びません。（図 108）
- 何でも噛んで食べることができる者は 50 歳代以降減少し、70 歳代以上では 53.2%となっています。（図 109）

図 96 3 歳児でむし歯のある者の割合



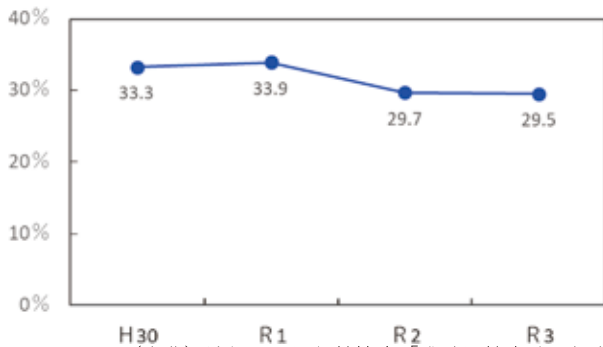
(出典) 厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」
沖縄県「沖縄県の母子保健」

図 97 3 歳児一人平均むし歯数



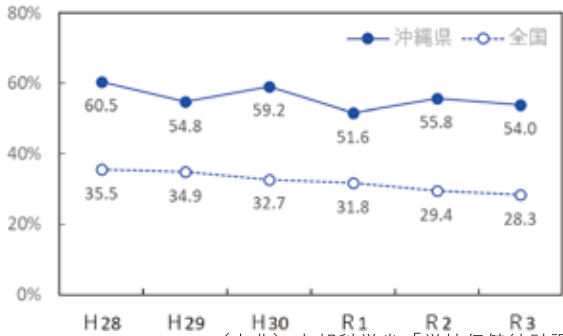
(出典) 厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」
沖縄県「沖縄県の母子保健」

図 98 3 歳児でむし歯のある者のうち 4 本以上のむし歯のある者の割合



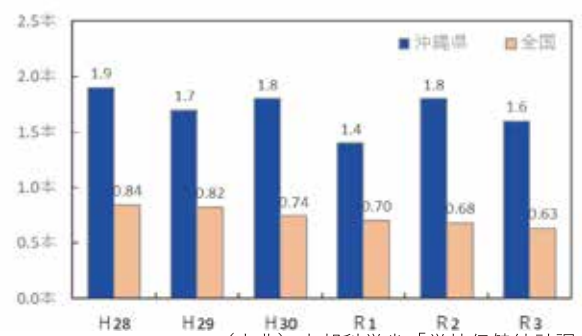
(出典) 沖縄県小児保健協会「乳幼児健康診査報告書」

図 99 12 歳児でむし歯のある者の割合



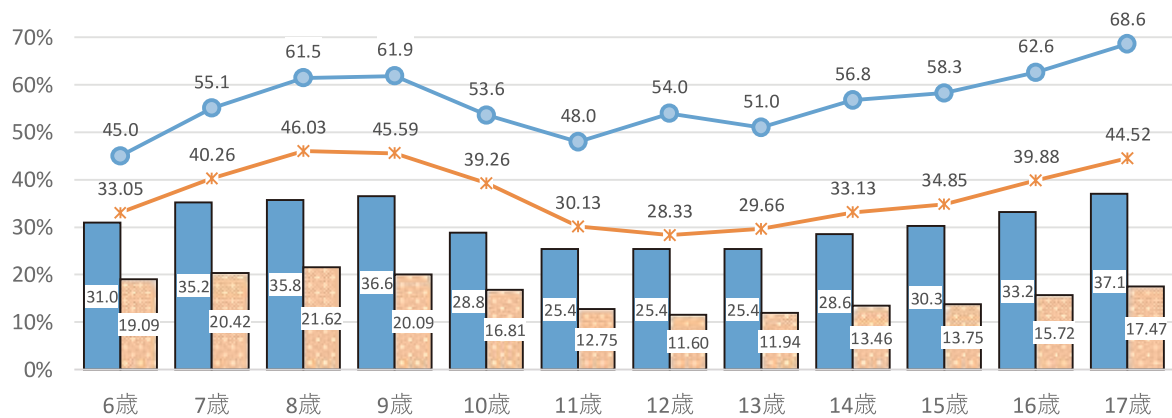
(出典) 文部科学省「学校保健統計調査」

図 100 12 歳児の一人平均むし歯数



(出典) 文部科学省「学校保健統計調査」

図 101 年齢別むし歯のある者の割合及び未処置歯のある者の割合 (R3)



(出典) 文部科学省「学校保健統計調査」

図 102 歯肉に炎症所見を有する者の割合,年齢階級別

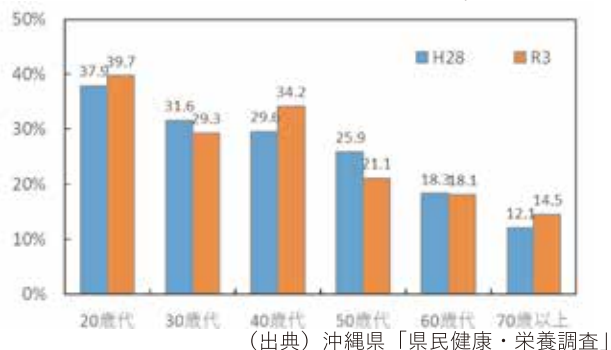


図 103 歯周炎を有する者の割合,年齢階級別



図 104 歯間部清掃器具（歯間ブラシ・デンタルフロス）を毎日使用する者の割合,年齢階級別

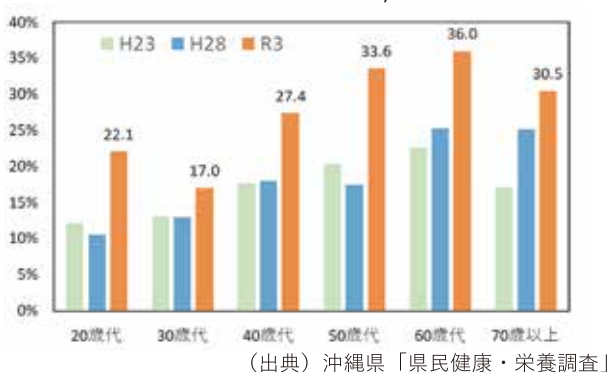


図 105 20歳以上で過去1年間に歯科検診を受診した者の割合

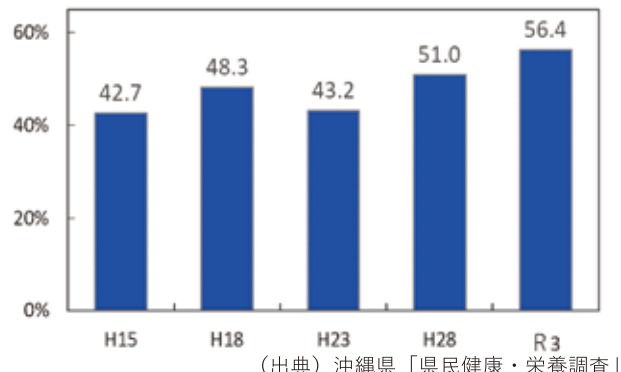


図 106 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合,年齢階級別



図 107 歯周疾患検診等成人対象の歯科検診を実施している市町村の割合

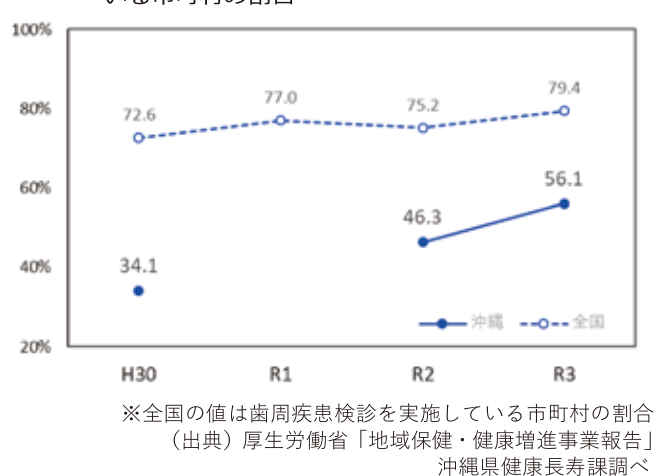


図 108 8020 達成者の割合
(75-84 歳で自分の歯が 20 歯以上の者)

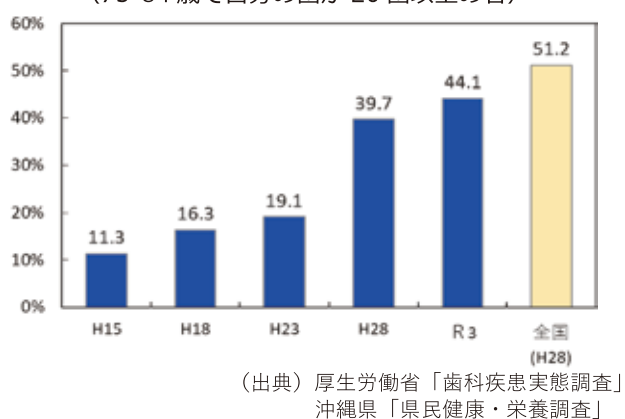
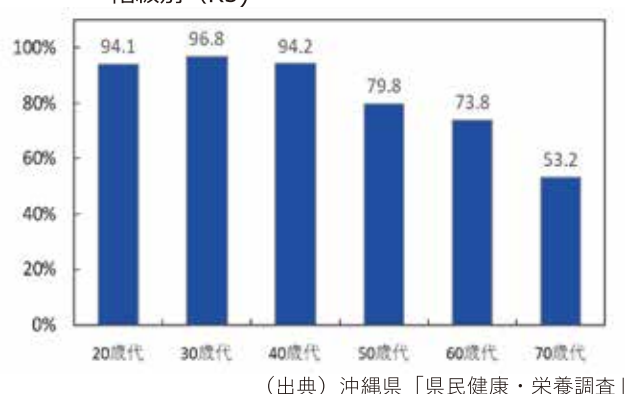


図 109 何でも噛んで食べることができる者の割合,年齢階級別 (R3)



主な課題

- 乳歯のむし歯の有病状況は改善していますが、全国では下位に位置しており、更に改善させる必要があります。
- 永久歯のむし歯の有病状況は改善傾向にありますが、全国最下位の状況が続いており、更に改善させる必要があります。未処置歯のある者の割合の改善に向け取り組む必要があります。
- むし歯の有病状況の地域差や個人差等の健康格差の縮小のために最も有効とされる集団でのフッ化物洗口実施拡大に向けて取り組む必要があります。
- むし歯や歯周病が悪化しないよう適切な歯みがき、歯間部清掃器具の使用や定期的な歯科検診受診等を促し、歯の喪失防止に努める必要があります。
- 歯周病等歯と口の健康と、糖尿病、心疾患、低出生体重児出産等全身の健康や喫煙との関連について啓発を行う必要があります。
- 歯周疾患検診等成人対象の歯科検診を実施する市町村の増加や受診率を向上させる必要があります。
- 歯を喪失した場合の治療の必要性や食べる・話す・笑うという口腔機能維持に関する啓発や取組拡大を行う必要があります。

施策の展開

- 歯みがき（仕上げみがき）、フッ化物応用、甘味（砂糖）の適正摂取方法等、むし歯予防に関する知識の普及を図り、市町村等と連携し、実践を促します。
- むし歯の有病状況の健康格差の縮小に有効とされる集団でのフッ化物洗口の実施拡大を推進します。
- 適切な歯みがき、歯間部清掃器具の使用等、歯周病予防のための知識の普及を図り、市町村等と連携し、実践を促します。
- 歯周疾患検診等成人対象の歯科検診の実施拡大や受診率向上を図るため、市町村と連携して取り組みます。
- 歯と口の健康と全身の健康（糖尿病、心疾患、低出生体重児出産等）の関連について周知するとともに、歯と口の健康に関して困りごとを抱えた県民が気軽に相談できる体制を構築します。
- 歯科口腔保健に関する取組やデータ等を収集・分析し、関係機関・団体等へ情報提供を行うとともに、理解を深めるための研修会を開催します。
- 沖縄県歯科口腔保健推進協議会等において、歯科口腔保健対策について関係機関・団体等から意見聴取を行います。

目標項目・指標

目標項目	指標	ベースライン	目標値		目標値の考え方	出典
			前期(R10)	後期(R14)		
多数のむし歯のある乳幼児の減少	3歳児でむし歯のある者のうち4本以上のむし歯のある者の割合	29.5% (R3)	27%	25%	現状値から減少させる	乳幼児健康診査報告書
むし歯のある児童生徒の減少	12歳児でむし歯のある者の割合	54.0% (R3)	45%	40%		学校保健統計調査
未処置のむし歯のある児童生徒の減少	17歳児で未処置歯のある者の割合	37.1% (R3)	25%	20%		
フッ化物洗口を実施する施設の増加	フッ化物洗口を実施している施設数（保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）	205か所 (R1・R3)	235か所	250か所	現状値から増加させる	健康長寿課調べ（保育所、認定こども園、幼稚園）、保健体育課調べ（小学校、中学校、特別支援学校）
歯周病を有する者の減少	60歳代で歯周炎を有する者の割合	53.0% (R3)	47%	45%	健康日本21（第三次）の目標値	県民健康・栄養調査
歯間部清掃器具を使用する者の増加	30歳代で歯間部清掃器具（歯間ブラシ・デンタルフロス）を毎日使用する者の割合	17.0% (R3)	45%	50%	現状値から増加させる	
定期的に歯科検診を受診する者の増加	20歳以上で過去1年間に歯科検診を受診した者の割合	56.4% (R3)	90%	95%	健康日本21（第三次）の目標値	
成人対象の歯科検診を実施する市町村の増加	歯周疾患検診等成人対象の歯科検診を実施している市町村の割合	56.1% (R3) (23市町村)	95%	100%	現状値から増加させる	健康長寿課調べ
より多くの自分の歯を有する高齢者の増加	8020達成者（75-84歳で自分の歯が20歯以上の者）の割合	44.1% (R3)	58%	60%	健康日本21（第三次）の目標値を参考に設定	県民健康・栄養調査
咀嚼良好な高齢者の増加	70歳以上で何でも噛んで食べることができる者の割合	53.2% (R3)	72%	75%		

歯っぴ〜センター

（沖縄県口腔保健支援センター）

歯と口の健康づくりに関する
電話相談や**出前講座**を実施
 しています。
 県民の方はどなたでも、
 お気軽にご連絡ください。
 （嘱託歯科医がいる施設は出前講座の対象外）

もしも

歯っぴ〜センターHP

098 - 894 - 5789

受付時間:平日9時～12時、13時30分～16時30分
 （年末年始は除く） 来所での相談はご遠慮ください。